

から御承知のことと存じます、洵に本會の感謝に堪えないところでございます。是で大體會務報告を終りますが、何か御質問がございましたら御質問を願ひます。——別に御質問がございませぬやうですが、會務報告に就ては御承認を得たことと認めて宜しうございますか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

ロ、昭和 10 年度收支決算報告

ハ、昭和 11 年度收支決算報告

○議長(水谷叔彦君) 次の議事に移ります。議事(ロ)の昭和 10 年度收支決算報告、(ハ)の昭和 11 年度收支決算報告であります、是は特に其の一々に就て御説明を申し上げませぬが、唯 11 年度の豫算に於て給料及手當が 10 年度に較べて見まして非常に多くなつて居ります、是は先刻申し上げました便覽の編纂の爲に職員招聘を豫定するが爲めであります。それから借室料が多少増加して居ります、是は今度移轉を致しました爲めであります。次に一番下の所に鐵鋼資料編纂勘定としまして約 4,000 圓と云ふものがあります、是は先刻申しました維持會費の増數等からして、殊に其の中の御寄附を願ひました目的の一つの便覽に就ての費用だけは別勘定にして經理をするのが適當であることを認めまして、別勘定と云ふものを設けましたが爲に其の方へ移してあるのであります。其の外別に御説明を申上げる程のことはございませぬが、何か、御質問がありましたらどうぞ願ひます。——別に御質問はありませぬか。それでは御承認を得たものと認めまして次の議事に移ります。

ホ、日本鐵鋼協會定款改正

○議長(水谷叔彦君) 次の議事(ホ)の日本鐵鋼協會の定款改正でございす。定款の改正は監事を新たに設けると云ふこと、從來定款にある東京在住と云ふ文字を、東京市及其の附近在住と改めることの 2 點でございす。監事を新設する理由は、會務も段々發展を致して参りますから、茲に監事を設けまして、會務監督の途を設けたい趣意であります。改正條項は御手許に差上げてある印刷物にありますから別に一々申上ませぬ。御質問がございましたら願ひたいと思ひます。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(水谷叔彦君) 只今御異議がないと云ふ仰せがございましたから、是は御承認を得たものと認めます。次に服部賞及び俵賞の贈呈式に移ります。

○金子評議員 先程御付託になりました投票の開票が済みましたから此の間にちよつと加へて戴きたいと思ひます。

○議長(水谷叔彦君) 先刻開票を御願ひ致しました役員の開票の結果の御報告をして戴くことに致します。

ニ、會長、理事、評議員(半数)改選(投票・開票)

○金子評議員 それでは開票の結果を御報告申し上げます。石川君と私と 2 人で立會の上開票致しました。投票總數は 381 票でございす。其の中 379 票の大多數を以て御當選になりました方々は評議員會御推薦の方々であります。念の爲に御名前を讀上げること致します。

(朗讀)

會長 理事 水谷 叔彦君

理 事

渡邊 三郎君

松下 長久君

吉川 晴十君

山縣 愷介君

評 議 員

岩瀬 德藏君	井上 克巳君	井口 庄之助君
濱田 彪君	林 狷之介君(新)	萩野 友助君
(新)長谷川 熊彦君	西村 小次郎君	大塚 榮吉君
小倉 正恒君	小田切 延壽君	門野 重九郎君
川上 義弘君	川崎舍 恒三君	横田 文吉君
田宮嘉右衛門君	中井 勵作君	村上 武次郎君
梅根 常三郎君	久保田 省三君	工藤 治人君
黒田 泰造君	牧 田 環君(新)	古井 保太郎君
伍堂 卓雄君	朝倉 希一君(新)	荒木 宏君
齋藤 大吉君	寒川 恒貞君	澁澤 正雄君

○金子評議員 或は御名前の讀み誤りがあるかと思ひますが、其の點は悪しからず御願ひ致します。右御報告致します。(拍手)

○議長(水谷叔彦君) ちよつと此の機會に皆様に御挨拶を申し上げたいと存じます。私は只今會長に御選舉に預かりまして洵に光榮の至りに存じますが、元來私は鐵及び鋼の専門ではありません。唯永らく製鋼業に關係を致したと云ふのみでありまして、此の日本鐵鋼協會の會長の勤めを致しますには甚だ心許なく又覺束なく存ずる次第でございす。御推舉に預かりましたから御請けを致しますが、どうぞ前會長、役員各位並に會員諸君の御援助と御協力とを得まして、任期中御勤めを完了致したいと存じますからどうぞ宜しく御願ひ致します。(拍手)

○會長(水谷叔彦君) それでは服部賞及び俵賞の贈呈式に移ります。是等の賞を贈呈されます方々の御名前等は御手許に差上げてありますから更めて申し上げませぬ。是等の賞を御受けになる各位の我が鐵鋼界に御盡力になりました功績に就きましては、本會の規程に則りまして慎重審議の上決を致したものでありまして、斯界に貢獻の著しいものと認めまして茲に表彰式を行ふ次第でございす。本會は受領者各位の御盡力に對しまして深く敬祝の意を表する次第であります。尙將來に於きましても一層の御盡力を切望する次第でございす。それでは只今から贈呈式を行います。(拍手)

二、服部賞金贈呈式

受領者

服部賞金	神戸製鋼所技師 工學博士 伊丹 榮一 郎君
同	吳海軍工廠製鋼部工手 岡田 時次 郎君
同	黒崎窯業株式會社常務取締役 高 良 淳君
同	日本特殊鋼合資會社技師 小 林 智 教君
同	長崎三菱造船所參事 工學士 佐々木 新太郎君
同	東北帝國大學金屬材料研究所助手
同	理學博士 西 山 善 治君
同	株式會社大同電氣製鋼所技師
同	工學博士 綿 織 清 治君
同	東京鋼材株式會社技師長 服 部 宗 三君

三、俵賞金贈呈式

受領者

	日本製鐵株式會社八幡製鐵所技師
技術上優秀論文	工學士 小 平 勇君
	明治專門學校教授マスター・オブ・サイエンス
學術上優秀論文	嘉 村 平 八君

○會長(水谷叔彦君) 是で總會を全部終了致しました。(拍手)
午後零時 8 分閉會

昭和10年度會務報告

(自昭和10年3月1日至昭和11年2月29日)

1. 集會

通常總會	理事會	評議會	服部賞委員會	依受審査會	實者會	編輯委員會	講演會	大會	研究部會
1	12	3	1	1	11	1	2	2	

2. 會員異動

() 内は資金口數

	名譽會員	維持會員	贊助會員	正會員	准會員	計
入會者	—	16(860)	2	180	134	332
退會者	—	3(30)	—	10	33	46
死亡者	1	—	1	6	2	10
昭和11年2月29日現在	17	44(1380)	16	933	979	1,990
前年同期比較	—1	+13	+13	+164	+99	+276

備考

イ、維持會員の異動次の如し。

加入者

日本鑄鋼株式會社	日本亞鉛鍍鋼業株式會社
鑄物機械製造株式會社	中山鋼業株式會社
特殊製鋼株式會社	大阪製煉株式會社
株式會社宮製鋼所	本溪湖煤鐵股份有限公司
株式會社尼ヶ崎製鋼所	日本カーボン株式會社
株式會社東京ロール製作所	三菱鑛業株式會社
日印通商株式會社	大阪製鋸株式會社
富永鋼業株式會社	住友金屬工業株式會社

退會

三菱製鐵株式會社	解散
株式會社住友製鋼所	合併
住友伸銅鋼管株式會社	

ロ、贊助會員増加 東馬三郎君 寒川恒貞君

ハ、准會員より正會員へ轉格者 112名

ニ、改姓名 8名

ホ、死亡者氏名

名譽會員	野田鶴雄君
贊助會員	木村久壽彌太君
正會員	吉田正心君 鮫島宗平君
	廣田理太郎君 佐藤英一君
	一本木清三君 藤田龜太郎君
准會員	室谷宗一郎君 池田傳君

以上10氏を喪ひたるは痛惜の至りなり。尙以上諸氏の訃に接しては直ちに弔詞を呈し哀悼の意を表せり。

3. 會誌發行及印刷物

イ、本會々誌「鐵と鋼」は自第21年第3號至第22年第2號。

ロ、商工省鐵山局編纂「製鐵業參考資料」を會誌附録として會員に頒布。

ハ、第20周年記念印刷物次の通り會員へ配布せり。

- (1) 日本鐵鋼協會要録 (2) 創立第20周年記念會次第 (3) 「鐵と鋼」自第1年至第20年總目次 (4) 製鐵用術語集 (近々配布の豫定)。

4. 處務事項

A. 第20回通常總會 昭和10年4月2日開會……出席280名

1. 評議員半數改選
2. 昭和9年度會務報告並に會計報告
3. 昭和10年度收支豫算報告
4. 服部賞金贈呈式(表彰の項参照)
5. 香村賞牌贈呈式(//)
6. 俵賞金贈呈式(//)

B. 創立第20周年記念會 昭和10年4月2日開會(總會同日)……出席200名

1. 祝賀式
2. 製鐵功勞賞牌贈呈式(表彰の項参照)
3. 故製鐵功勞者並に物故會員の追悼會
故製鐵功勞者(五十音順)

故淺野總一郎君	故大石源治君	故大倉喜八郎君
故片岡忠溫君	故住友吉左衛門君	故園琢磨君
故種子田右八郎君	故中村雄次郎君	故原田鎮治君
故渡邊芳太郎君		外物故會員一同

C. 理事會

1. 入會退會者審査
2. 毎月會務並會計事項審査
3. 八幡製鐵所製 日本鐵鋼試料分譲に關する件(昭和10年4月9日)
4. 編輯委員囑託 次記2名を囑託す(昭和10年6月5日)
海軍技術研究所員 海軍造兵大佐 理學博士 五百旗頭 啓君
陸軍砲兵中佐 工學士 長尾 武雄君
5. 抄録員囑託に關する件(昭和10年6月5日)

次の通り囑託せり。

林三樹男君	大原久之君	大屋正吉君
岡田實君	及川象平君	川端駿吾君
横田清義君	高塚貫一君	高瀬孝夫君
竹山和達君	中島省一君	名黒和孝君
南波伸尙君	海野三朗君	山本次郎君
矢島忠和君	前田六郎君	深堀佐市君
佐藤知雄君	岸本浩君	森永卓弍君
茂木吉治君	鈴木千代藏君	垣内富士雄君

(以上24名)

6. 國產工業株式會社よりの寄附金の件(昭和10年8月7日)

7. 基金募集に關する件 (昭和10年11月6日)

8. 鐵鋼便覽編纂委員長 副委員長 囑託(昭和11年2月5日)

次の通り

鐵鋼便覽編纂委員長	前會長 俵 國一君
同 副委員長	// 河村 驥君

9. 會長缺員中代行者に關する件 (昭和11年2月5日)

水谷理事代行

D. 評議員會

1. 河村博士寄贈資金取扱規則制定 (昭和10年4月24日)
2. 野田會長 缺員中理事にて代行の件 (昭和11年1月16日)
薨去に付
3. 昭和10年度收支決算に關する件 (昭和11年2月19日)

- 4. 昭和 11 年度收支決算に關する件 (昭和 11 年 2 月 19 日)
- 5. 定款改正案に關する件 (同 上)
- 6. 任期満了役員改選に付き其候補者選定(同 上)

E. 編輯委員會

- 1. 會誌每號掲載原稿審査選定を行ふ
- 2. 會誌並に其他の刊行物の編輯に關する件
- 3. 講演大會、研究部會等の開催準備並に實行
- 4. 抄録分類改正 (昭和 10 年 6 月 15 日)
- 5. 資源局照會の「原材料標準用語第二次案」の審議 (〃 8 月 27 日)
- 6. 製鐵用語語集編集

F. 俵賞金受領者審査會(理事、前會長、編輯委員出席) 昭和 10 年 3 月 2 日開會

- 1. 俵博士記念資金取扱規則に依り該賞金受領者の選定を行ふ(表彰の項参照)

G. 服部博士記念資金取扱委員會 昭和 11 年 2 月開會

- 1. 第 6 回服部賞受領者詮衡
- 2. 昭和 10 年度服部博士記念資金收支決算報告
- 3. 昭和 11 年度服部博士記念資金收支決算報告

H. 官廳事項

- 1. 本會事業報告を文部省へ届出 (昭和 10 年 4 月 6 日)
- 2. 本會資産變更登記 (〃 4 月 10 日)
- 3. 商工省鐵山局編纂「製鐵參考資料」私費印刷頒布方申請 (昭和 10 年 10 月 25 日許可)
- 4. 野田會長薨去に付理事抹消登記 (昭和 11 年 1 月 15 日)
- 5. 定款第一條中事務所「所在地」變更方を文部省へ申請 (昭和 11 年 2 月 26 日申請)

J. 寄贈金

- 1. 前會長 河村 曉君 金五千圓也(河村博士寄贈資
金取扱規則制定)
- 2. 國産工業株式會社 金一千圓也(本會事業基金)
- 3. 東海電極株式會社 取締役社長 寒川恒貞君 金五百圓也(〃)
- 4. 電氣冶金工業所 取締役社長 東馬三郎君 金三百圓也(〃)
- 5. 合資會社栗本鐵工所 金一百圓也(〃)
- 6. 日本鑄鋼株式會社 金一百圓也(〃)
- 7. 日本鑄造株式會社 金二百圓也(〃)
- 8. 徳山鐵板株式會社 金一千圓也(〃)

K. 事務員移動

1. 採用

事務員 庶務擔當 經濟學士 綠川 啓(昭和 10 年 6 月)
編輯助手 學生 中山 雄作(昭和 10 年 3 月)

2. 退職

常務委員兼會誌編輯擔任 工學博士 蒔田 宗次(昭和 11 年 5 月)
事務員タイピスト 前田 テル(昭和 11 年 12 月)

L. 工學會其他

1. 工學會

イ、本會代表者並同會評議員 水谷理事擔當(會長缺員に付)
ロ、第 3 回工學大會委員
第 3 回工學大會副會長 前會長 俵 博士
代表講演者 同上 河村博士
接待委員 吉川理事 講演委員 田中委員
展覽委員 鹽澤委員 見學委員 山田委員

ハ、工學會工業博物館建設調査委員移動

同委員 水谷理事 辭任
同委員 俵 博士 代任

2. 本會推薦海事協會技術委員の任期満了に付き後任者推薦方
要請に付次の通り推薦せり。

本會理事 工學博士 水谷 叔彦君 (再)
〃 〃 渡邊 三郎君 (再)
〃 〃 吉川 晴十君 (新)

3. 本會代表資源局原材料標準用語調査委員 吉川理事が同會完
了の爲め囑託を解かる。

5. 調査事項

1. 研究部會

- a. 鋼材鍛鍊 第 11 回研究部會 第 1 回鋼材部會昭和 10 年 4 月 5 日東京にて開會
- b. 鋼材工場に於ける熱經濟に就て 第 12 回研究部會第 2 回鋼材部會昭和 10 年 10 月 16 日神戸にて開會

2. 役員會

- イ、商工省臨時産業合理局工業品規格統一調査會より照會の規
格案 9 件の審議
- ロ、逓信省管船局より照會の「造船材料規格案」に關する件
- ハ、資源局照會の「原材料標準用語第 2 次案」の審議

6. 表彰

a. 製鐵功勞賞牌贈呈 昭和 10 年 4 月 2 日本會創立第 20 周年
記念會に於て次記 4 氏に贈呈

東京鋼材株式會社取締役本會前會長 工學博士 河村 曉君
日本製鐵株式會社八幡製鐵所技師長 工學士 景山 齊君
株式會社日本製鐵所顧問 本會理事 工學博士 水谷 叔彦君
日本特殊鋼合資會社々長 本會理事 工學博士 渡邊 三郎君

b. 服部賞金贈呈(第 5 回) 昭和 10 年 4 月 2 日第 20 回通常總
會に於て贈呈

本溪湖煤鐵公司 製鐵科長 工學士 井門 文三君
東海鋼業株式會社 技師 井上 禎治君
日本特殊鋼合資會社 技師 佐藤 政一君
東北帝國大學工學部助教授 工學博士 佐藤 知雄君
日本製鐵株式會社八幡製鐵所 宿老 白石 竹松君
吳海軍工廠製鋼部々員 海軍造兵中佐 工學士 武林 誠一君
株式會社川崎造船所製鐵工場薄板課主任 工學士 中島 道文君
日本製鐵株式會社兼二浦製鐵所作業部長 工學士 松本與三郎君
日本鋼管株式會社製鋼掛主任 宮原 信治君
日本製鐵株式會社八幡製鐵所 技師 目黒 斌君

c. 香村賞牌贈呈 昭和 10 年 4 月 2 日 第 20 回通常總會に於
て贈呈

東京製網株式會社 常務取締役 戸村 理順君

d. 俵賞金贈呈(第 1 回) 昭和 10 年 4 月 2 日第 20 回通常總會
に於て贈呈

學術 上 菊田 多利男君
技術 上 吉川 平喜君

7. 圖書寄贈數 653 部

8. 講演會

- 1. 第 14 回講演大會 昭和 10 年 4 月東京に於て 出席者 320 名
- 2. 第 15 回 〃 昭和 10 年 10 月神戸に於て 出席者 470 名
- 3. 臨時講演會 昭和 11 年 1 月 23 日東京に於て(日本學
術振興會と聯合) 出席者 210 名

以上報告候也

昭和 11 年 4 月 5 日

社團法人日本鐵鋼協會
代表理事 工學博士 水谷 叔彦

昭和 10 年度收支決算表

(自昭和 10 年 3 月 1 日 至昭和 11 年 2 月末日)

昭和 11 年度收支決算

(自昭和 11 年 3 月 1 日 至昭和 12 年 2 月末日)

收 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
維持會員會費	7,500'00	會誌印刷費	11,847'51
正會員會費	7,880'70	版類製作費	782'53
准會員會費	7,657'80	別刷印刷費	938'77
入會金	394'00	製鐵參考資料費	1,091'70
印刷物分讓料	2,128'22	印刷原稿料	518'75
廣告料	6,890'50	約東郵便料	484'27
公社債利子	2,147'06	俸給及手當	5,131'30
振替貯金利子	207'85	借室料	1,735'00
銀行預金利子	160'88	會合費	442'65
信託預金利子	585'16	工學會費	200'00
鐵鋼標準試料分讓料	2,744'64	事務費	3,141'58
雜收入	8'28	圖書費	38'00
社債償還利得金	90'00	什器費	33'00
		鐵鋼標準試料金	2,151'00
		買入代費	1,863'06
		大會費	1,863'06
		20周年記念事業費	4,083'55
		豫備費	586'00
		收支差引收入過	3,326'42
		財產へ繰入高	
合 計	38,395'09	合 計	38,395'09

收 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
維持會員會費	13,800'00	會誌印刷費	13,000'00
正會員會費	8,500'00	版類製作費	900'00
准會員會費	7,000'00	別刷印刷費	700'00
正會員入會金	300'00	製鐵參考資料費	600'00
准會員入會金		印刷費	600'00
印刷物分讓料	1,500'00	印刷原稿料	850'00
廣告料	4,500'00	約東郵便料	550'00
公社債利子	2,000'00	給料及手當	7,400'00
振替貯金利子	200'00	借室料	3,000'00
銀行預金利子	100'00	會合費	550'00
信託預金利子	600'00	工學會費	200'00
鐵鋼標準試料分讓料	2,400'00	事務費	3,500'00
雜收入	100'00	圖書費	400'00
		什器費	50'00
		鐵鋼標準試料代費	2,000'00
		受大會費	2,000'00
		豫備費	1,300'00
		鐵鋼資料編纂	4,000'00
		勘定入支出	
合 計	41,000'00	合 計	41,000'00

昭和 11 年度鐵鋼資料編纂勘定收支決算

收 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
經常費より受入	4,000'00	鐵鋼便覽編纂	4,070'40
資金利子	70'40		
		別口(1)より入	
合 計	4,070'40	合 計	4,070'40

支 出		收 入	
項 目	金 額	項 目	金 額
鐵鋼便覽編纂	4,070'40	經常費より受入	4,000'00
		資金利子	70'40
		別口(1)より入	
合 計	4,070'40	合 計	4,070'40

財 産 目 録

(昭和 11 年 2 月末日現在) (増減の欄の+は増、-は減を示す)

摘 要	昭和 10 年 2 月末日現在	昭和 11 年 2 月末日現在	差 引 増 減
1. 圖書	276'00	464'35	+188'35
2. 什器	1,152'00	1,544'00	+392'00
3. 有價證券	46,671'34	46,761'34	+ 90'00
東京電燈會社々債路	¥ 1,000'00	910'00	- 910'00
" 第2號 "	" 1,000'00	0	- 1,000'00
東洋拓殖債券	" 13,000'00	12,870'00	-
北海道拓殖債券	" 10,000'00	9,965'00	-
東京農工銀行債券 151 回	" 11,000'00	10,967'00	-
日本興業銀行債券 169 回	" 10,000'00	9,965'00	-
帝國5分利公債せ號	" 1,000'00	949'50	-
(1) 帝國5分利公債甲路	" 1,000'00	907'00	-
(2) " み號	" 150'00	137'84	-
4. 借室料敷金	405'00	405'00	-
5. 振替貯金(基本金を含む)	11,287'55	8,438'54	- 2,849'01
6. 銀行預金	3,264'19	2,793'62	- 470'57
7. 定期預金	2,144'00	2,234'46	+ 90'46
8. 信託預金	10,075'69	15,660'85	+ 5,585'16
9. 現金	51'83	351'86	+ 300'03
計	75,327'60	78,654'02	+ 3,326'42

(續き)

摘 要	昭 和 10 年 2 月 末 日 現 在	昭 和 11 年 2 月 末 日 現 在	差 引 増 減
別口 (1) 事業資金 (銀行預金)	—	3,200'00	+ 3,200'00
計	—	3,200'00	+ 3,200'00
別口 (2) 服部博士記念資金現在高			
帝國 5 分利公債ひ號 (額面) ￥ 20,000'00	20,000'00	20,000'00	—
銀行預金	1,199'46	1,099'02	- 100'44
現金	—	97	+ 97
計	21,199'46	21,099'99	- 99'47
別口 (3) 香村博士寄贈資金現在高			
帝國 5 分利公債も號 (額面) ￥ 20,000'00	20,000'00	20,000'00	—
銀行預金	1,715'01	2,431'46	+ 716'45
現金	1'88	0	- 1'88
計	21,716'89	22,431'46	+ 714'57
別口 (4) 俵博士記念資金現在高			
東京府農工銀行債券 144 回 ￥ 5,000'00	5,000'00	5,000'00	—
銀行預金	151'91	144'99	- 6'92
現金	—	3'10	+ 3'10
計	5,151'91	5,148'09	- 3'82
別口 (5) 河村博士記念資金現在高			
信託預金 (元)	—	5,000'00	+ 5,000'00
信託預金 (利)	—	134'65	+ 134'65
計	—	5,134'65	+ 5,134'65
總 計	123,395'86	135,668'21	+ 12,272'35

備考 摘要欄の有價証券中 (1) は會誌發行擔保金 (2) は約東郵便擔保なり。

服部博士記念資金收支決算表

(自昭和 10 年 3 月 1 日 至昭和 11 年 2 月末日)

收 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
前年度より繰越 (銀行預金)	1,199'46	賞 金	1,000'00
公債利子	1,000'00	賞狀揮毫料	18'00
銀行利子	18'21	受賞者招待費	27'00
		委員會費	17'25
		郵便費	17'48
		印刷費	10'75
		筆耕料	12'53
		信託手数料	10'00
		雜 費	4'67
		收支差引殘額 (銀行預金及現金)	1,099'99
合 計	2,217'67	合 計	2,217'67

香村博士寄贈資金收支決算表

(自昭和 10 年 3 月 1 日 至昭和 11 年 2 月末日)

收 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
前年度より繰越 (銀行預金)	1,715'01	賞牌製作費	317'62
公債利子	1,000'00	賞狀揮毫料	1'80
銀行利子	39'67	受賞者招待費	3'00
現金	1'88	公債保護預手數料	2'40
		雜 費	28
		收支差引殘額 (銀行預金)	2,431'46
合 計	2,756'56	合 計	2,756'56

俵博士記念資金收支決算表

(自昭和 10 年 3 月 1 日 至昭和 11 年 2 月末日)

收 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
前年度より繰越 (銀行預金)	151'91	賞 金	200'00
債券利子	225'00	通 信 費	4'65
銀行利子	1'58	印 刷 費	2'20
		筆 耕 料	3'60
		委 員 會 費	16'25
		受 賞 者 招 待 費	3'00
		雜 費	70
		收支差引殘額 (銀行預金及現金)	148'09
合 計	378'49	合 計	378'49

昭和11年度別口取扱資金收支豫算

收 入			支 出		
項 目	金 額	摘 要	項 目	金 額	摘 要
別 口 (1) 事業資金					
事業資金 以 上 利 子	3,200'00 70'40	(銀行預金)	事業資金 鐵鋼資料編纂勘定へ支出	3,200'00 70'40	(次期へ繰越)
合 計	3,270'40		合 計	3,270'40	
別 口 (2) 服部博士記念資金					
帝國五分利公債 銀行預金 公債利子 預金利子	20,000'00 1,099'99 1,000'00 20'00	前期より繰越	公債 銀行預金 賞金贈呈 印刷物費 委員會費 招待費 雜費	20,000'00 1,242'99 800'00 20'00 15'00 27'00 15'00	次期へ繰越 前同名 八
合 計	22,119'99		合 計	22,119'99	
別 口 (3) 香村博士寄贈資金					
帝國五分利公債 銀行預金 公債利子 預金利子	20,000'00 2,431'46 1,000'00 53'50	前期より繰越 前期より繰越	帝國五分利公債 銀行預金	20,000'00 3,484'96	次期へ繰越 同上
合 計	23,484'96		合 計	23,484'96	
別 口 (4) 俵博士記念資金					
東京農工債券 銀行預金 公債利子 銀行利子	5,000'00 148'09 225'00 3'30	前期より繰越	債券 銀行預金 俵賞金贈呈 雜費	5,000'00 151'39 200'00 25'00	次期へ繰越 前同名 二
合 計	5,376'39		合 計	5,376'39	
別 口 (5) 河村博士寄贈資金					
資 託 預 金 信 託 預 金 以 上 利 子	5,000'00 134'65 205'40	信託預金 前期より繰越	資 託 預 金	5,000'00 340'05	次期へ繰越 〃
合 計	5,340'05		合 計	5,340'05	
總 計	59,591'79		總 計	59,591'79	
				(内次期へ繰越總額)	58,419'39

定款改正の件

第1、本會役員に監事新設の件
(理由)

從來本會役員には監事を置かざりしも會務發展につき監事を新設し會務監査の制度を設くる必要を認めたるに付

定款改正箇所

1、「第3章 役員」中

第14條「理事5名(内1名ヲ會長トス)」の次に「監事2名」の1行を挿入す

第16條の次に新に第17條として左の1箇條を設くること

「第17條 監事は東京市及び其附近在住の正會員中ヨリ評議員會ニ於テ之ヲ選舉スルモノトシ其任期ヲ就任後第1回通常總會終結ニ至ル迄トス」

現「第17條」を「第18條」とし以下順次繰下ぐ

2、「第4章 役員ノ職務權限」中

現「第20條」(新「第21條」)の次に第22條として左の1箇條を設くること

「第22條 監事ハ本會ノ會務ヲ監査ス」

現「第22條」を「第24條」とし以下2箇條づゝ繰下ぐ

現「第20條」(新第21條)の條文に於て「理事……ハ」の上に「第16條ノ」の五字を挿入す

第2、第16條「第17條」改正の件

(理由)

交通發展の結果範圍を擴張するの要あるに付き定款改正箇所

1、「第16條」及現「第17條」(新「第18條」)中「在京」の二字を「東京市及其附近在住」に改む

參 考 改 正 條 文 の 全 文

(挿 入)

第14條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

1、理 事 5名(内1名ヲ會長トス)

1、監 事 2名

1、評 議 員 60名

(1部改正)

第16條 理事ハ總會ニ於テ東京市及其附近在住ノ正會員ヨリ正會員ノ選舉スルモノトシ其任期ヲ就任後第2回通常總會終結ニ至ルマデトス

(新設條文)

第17條 監事ハ東京市及其附近在住ノ正會員中ヨリ評議員會ニ於

テ之ヲ選舉スルモノトシ其任期ヲ就任後第 1 回通常總會終結ニ至ル迄トス

(1 部改正)

第 18 條 評議員ハ正會員中ヨリ正會員之ヲ選舉スルモノシ其半數以上ハ東京市及其附近在住ノ會員タルコトヲ要ス評議員ノ任期ハ就任後第 2 回通常總會終結ニ至ルマデトス

(挿入)

第 21 條 第 16 條ノ理事ハ互選ヲ以テ左ノ職務ヲ分掌ス

- 1、庶務 會計主任 2 名
- 2、編輯及研究主任 2 名

(新設條文)

第 22 條 監事ハ本會ノ會務ヲ監査ス

備 考

新設條文ヲ加ヘタル結果條送リニナリタル條文ハ茲ニ記載セズ

以 上

第六回服部賞金受領者推薦理由書

賞 金	伊 丹 榮 一 郎 君
同	岡 田 時 次 郎 君
同	高 良 淳 君
同	小 林 智 教 君
同	佐々木 新太郎君
同	錦 織 清 治 君
同	西 山 善 次 君
同	服 部 宗 三 君
	(五十音順)

服部賞金受領者 工學博士 伊丹榮一郎君

理 由

同氏は大正十一年京都帝國大學工學部冶金科を卒業し直に神戸製鋼所に入社して今日に至り。此間鋼の熱處理其他材料に關する諸般の研究に従事し現場技術の進歩に甚大なる援助を與へたり。就中硬質マンガン鋼の工業的價値に關する研究と硬鋼穿鑿用ドリル、カッターに關する研究は産業上及び國防上重大なるものとして推賞に値するものなり。

從來セメント製造用ミルの裏飯はチル鑄鐵を以て造られたるも、此のものは頗る脆硬にして破損し易く運搬並に取扱上常に困難を感じたる所なり。然るに同氏は昭和三年より硬質マンガン鋼の研究に着手しマンガン 4-7% のマンガン鋼は耐摩耗性並に靱性の點に於てチル鑄鐵に優りオーステナイトマンガン鋼よりも耐摩耗性の良好なる事を発見しこれをミルの裏飯として使用する時はチル鑄鐵の場合に比して其の厚みを約 3 分の 1 減ずるも尚よく後者の場合よりも耐摩耗性の大きなることを實驗的に證明せり。次いで昭和 4 年カーバイト原料粉碎用チューブミルの裏飯として之を實用に供し爾來六ヶ年以上経過するも何等著しき磨耗狀況を呈せず、普通のチル鑄鐵らなば長くとも三ヶ年を経れば取換を要すべきものなれば本材料の工業用價値充分に認めらるる次第なり。其の後數ヶ年に於て實用せられつゝあるに就て見るも成績良好にして從來歐米並に我國に於て實用上全く認められざりし硬質マンガン鋼の工業的價値を實驗的に研究解説し之を實際工業上に應用したる同氏の努力は我國工業界に利する所大なりと言ふべし。

次に硬質特殊鋼の穿鑿用ドリル、カッターに關しては防彈鋼板

の如き特別高硬度鋼の機械加工の爲に同氏は各種の高速度鋼に就て研究を試み遂に高級高速度鋼の熱處理の改善によつてウイデイヤに匹敵する硬度を得、且つ靱性はウイデイヤより遙かに良好なる結果を得之れによりて満足に機械加工をなす事を得たり。其の熱處理の特徴とする所は焼戻に於ける方法の改良にして、之を從來一般に行はれ居る如く連続的に一定時間焼戻を行ふ事なく短時間宛不連続的に焼戻を行ひ以て著しき硬度の上昇を生ぜしむるものにして、本方法によつて前記高硬度特殊鋼のみならず肌焼せる特殊鋼及び靱性大なる高マンガン鋼をも容易に加工する事を得たり之によつて軍需器材の製造工程を早め、又殊更にウイデイヤの購入を要せず、工業經濟上、並に國防上裨益する所大なりと言ふべし。

以上の業績に就て見るに同氏は服部賞金受領者たる資格充分なる者と認む。

服部賞金受領者 岡田時次郎君

理 由

同氏は吳海軍工廠製鋼部の創設日尙淺き明治 39 年 8 月海軍唯一の大型兵器鍛鍊工場たる第八工場に入業し爾來鍛鍊作業に従事し重要兵器の製造を擔當せるが不斷の研鑽と熱心努力の結果彈丸製造に關し重要な發明考案を爲し我優良兵器製造上裨益する所顯著なるものあり。斯く同氏は入廠以來 30 餘年専心重要兵器の製造に従事し鍛鍊技術の改良進歩に心血を傾倒し其の優秀なる技能と相俟て大型鍛鍊技術の改良發達に貢獻する所多大にして服部賞金受領者たるの資格充分なりと認む。

服部賞金受領者 高良淳君

理 由

八幡製鐵所の製鋼爐用珪石煉瓦は創業當時外國製を用ひ居たりしが三好久太郎博士は獨逸留學中に煉瓦製造を研究され自ら親しく型打作業まで實習し歸來葛、高兩博士と協力しつゝ煉瓦試製に當られたり。

高氏は原料を各方面に求められ小野田セメント會社の粉碎用の白に用ひ居りし赤白珪石を豊後臼杵に得られ而して葛氏は三好氏の其試製煉瓦を外國技師が和製を用ふるを甚だ厭ひしを以て彼等の目を竊みて夜分に試験されつゝ三好氏の研究を助けられたりき其頃は引續き赤白珪石に粘力を附すべく質劣れる軟珪石を混じ其爲に耐火度は幾分降下するを以て不得已性質良好ならねど耐火度高き白珪石を交へ居たりき、然るに明治 39 年高良氏は八幡に入職後煉瓦工場にありて常に研究に没頭されありしが以上三種原料を以てせる煉瓦は成績不良なりし爲め性質良好なる赤白珪石のみを以てせば優良ならむと考へられ此石を極めて微粉にする事に依つて粘力を得べく、永年坩堝工場の松島氏と試験に努められ終に今日の良好なるものに成功されたり。此赤白珪石に依る煉瓦の性質は優に外國製の一等品に劣らず今日内地滿洲に於ける珪石煉瓦は凡て此方法に依るものなり。又高良氏の勤務せる黒崎窯業會社は平均 96% まで製鐵用煉瓦を供給す。

要之氏の本邦製鐵事業に對する功績實に多大なりと云ふべく服部賞金受領者たるの資格充分なりと認む。

服部賞金受領者 小林智教君

理 由

同氏は明治 43 年築地工手學校機械科を卒業後直に鐵道院に採用せられ、當時創設せられたる鐵道試験所に最初の所員として勤務を

命ぜられ、在職中岩倉鐵道學校高等科に入り學を修め、大正3年12月大臣官房研究所勤務となり大正5年技手を拜命せり、同所在職中は専ら鐵鋼材料の研究及び試験に従事し多くの有益なる研究を遂げたり、就中「軌條車軸及外輪等の破損原因につき統計的調査及試験」と「汽罐及焔管の腐蝕防止に關する諸研究」とは本邦鐵道車輛、汽罐車等の改善に貢獻する所大なりと認めらる。大正6年8月日本特殊鋼合資會社に入社し、各種特殊鋼の研究並に工具鋼の熱處理の研究に専念し、續いて燒入工場主任及工具製造工具製造工場兼務となり今日に及べり。故松下博士と共に「實用燒入效果測定器」の考案をなし鋼の燒入效果の研究に多大の効果を擧げ、燒入工場の主任となりては特に工具鋼、高速度鋼の燒入方法の改善に力を注ぎ工夫を凝し優秀なる工具を市場に送り、外國品の輸入防遏に貢獻する所尠からず、非常時に際しては航空機用發動機的主要部品の熱處理をも擔當し大いに優秀なる成績を擧げたり、斯くて氏は數年の長きに亘り鐵鋼材の研究並に特殊鋼熱處理の研究と之が實際作業に従事したる者にして服部賞金受領者たるの資格充分なりと認む。

服部賞金受領者 工學士 佐々木新太郎君
理由

同氏は大正5年7月九州帝國大學工科大學冶金學科を卒業後直ちに長崎三菱造船所勤務を命ぜられ爾來今日に至る。此間最初同所附屬の平爐製鋼工場勤務を経て現今の材料實驗所勤務に至るまで終始一貫造船用各種金屬材料の製造、改善に力を盡し就中プロペラー用 N・M ブロンズ (高力真鍮) の熔解製造に對し大なる貢獻をなせり、更に電氣熔接に關しては率先して研究を重ね之れが實用化に對し大に努力を致し今日の長崎三菱造船所電氣熔接法が優秀にして本邦に於ける電氣熔接をリードせる状態に至りし所以のものは全く君の絶へざる研究努力の結果に依るものと云ふべし。

同氏は目下同所材料實驗所長の要職にあり且諸學會に關係を有し屢々有益なる研究論文を發表して金屬材料の研究進歩に關し大なる貢獻を致しつゝあり。仍て服部賞金受領者たるの資格充分なりと認む。

服部賞金受領者 工學博士 錦織清治君
理由

同氏は昭和3年東北帝國大學工學部金屬工學科を卒業し直に助手を拜命し後講師となり次に助教に進み昭和10年4月大同電氣製鋼所に轉ぜり。其間鐵鋼に關する種々の研究をなせるが其の最重要なるものは鐵の窒化に關する研究なり。氏は先づ種々の方法に依て鐵-窒素系平衡状態圖を研究し從來發表されたる多くの状態圖中 Lehrer の提出せるものが正當なることを確定し進んで窒化に及ぼす各種元素の影響及其機構に就て研究せり、其結果アルミニウムは主として表皮の硬度を増しクロムは窒化の深さを増す等の事實を明にし此等諸元素の適當量を決定し又炭素の必要なる所以を明にし實地窒化作業に於て屢遭遇する諸缺陷の理由を説明し窒化装置に種々の工夫を凝らし適當なる操作條件を發明せり。又此等試料に就て綿密に顯微鏡組織を研究し種々の三元窒化物の存在を推定し X 線に依て之を證明し窒素硬化の機構を説明せり、猶其他數篇の研究發表あり何れも學術上並に工業上頗有益なるものにして同氏は服部賞金受領者として充分なる資格あるものと認む。

服部賞金受領者 理學博士 西山善次君
理由

同氏は昭和2年東北帝國大學理學部物理學科を卒業し直に金屬材料研究所助手を拜命し爾來今日に至るまで専ら研究に従事し種々の有益なる結果を發表せり、其中最有要なるものは鋼の燒入燒戻に關する X 線の研究にして精巧なる操作と周密なる考察とにより鋼の燒入燒戻組織の結晶構造及諸變化の機構を闡明せるものなり。即オーステナイト並に α -マルテンサイトに於ける炭素原子は侵入型固溶體として存在することを發見し又 β -マルテンサイトの廻折像に現はるゝ線が非常に散大せる理由に就て考究しこれは炭素原子が多少分解せるも猶充分析出し得ざる一種の固溶體の如き状態に在りと結論せり。尙常温に於て起る時效現象は主として α -マルテンサイトが β -マルテンサイトに變化することによることを確めたり、尙又 A₂ 變態の機構に就ても從來の學説を訂正しマルテンサイトの結晶構造に關し一層明瞭なる解決を與へたり。此等の結果は既刊論文5編及目下印刷中のもの2篇に發表せり。

其他の事項に就ても數篇の研究發表ありて同氏の業績は學術上頗る有益なるものなり仍て服部賞金受領者たるの資格充分なりと認む。

服部賞金受領者 服部宗三君
理由

同氏は大正3年6月東京高等工業學校機械科卒業後直に東京鋼材會社の前身たる東京スプリング製作所に入所し現在に至る迄會社の組織經營上幾多の變遷ありしも23年の久しきに亘り同社の技術特に發條製作技術の改良發達に對し多大の貢獻をなせり、其間大正5年11月米國に出張して同國各地を巡歴し著名發條製作工場を視察し研鑽を積み大正6年6月歸朝し一時同社取締役として大正15年8月以後同社技師長として今日に至る、氏の入社當時は恰も本邦に於ける發條製作の創始時代に屬し本邦鐵道客貨車用其他發條の大部分は米獨等の外國製を使用し偶々本邦にて製造せらるゝものも其の原料は外國材を使用し而も其の成品たる發條は漸く試験的注文の域を脱せず製作設備も亦不完全なるを免れざりしが氏は之を遺憾として設備に對しては鋭意幾多の改良を加へ發條需用の増加に伴ひ材料の自給と品質の改善を計り漸次工場を擴張して優良國産品の産出に努めたる結果同社が今日本邦主要發條工場として世の認むる處となりたるのみならず鐵道省其他需要の發條は凡て國産品を使用せらるゝに至りたるは氏多年の眞摯熱誠なる努力と苦辛研究に負ふ處至大なり尙ほ氏は曩に發條に關する智識の一般に普及せざるを憂へ大正13年「スプリングの設計及製造」なる書を刊行し其後昭和6年「ばね」と改題して世に公にし理論と實際との結合を企劃せり蓋し發條に關する書籍は歐米諸國を通じて只英國の Sanders 氏の著書あるのみなるに氏は繁劇なる職務の餘暇を以て之を著述しスプリング製作者並に需用者に對して多大の便益を與へたるが如き實に同氏は本邦發條製作上の權威と稱するも過言にあらざるなり。

以上の理由に依り同氏は服部賞金受領者たるの資格充分なりと認む。

第二回債賞金受領者推薦報告

本會債博士記念資金取扱規則に依り鐵と鋼第21年自第1號至第12號中學術上並に技術上優秀論文著者審査會を開き慎重審議の上次記二氏を選定し評議員會の決議を経て茲に債賞金贈呈式を擧ぐるは欣幸とする處なり。

1、學術上優秀論文題目及著者

鐵の磁氣的性質に及ぼす磷の影響に就て(鐵と鋼第21年第8號)

嘉村平八君

1、技術上優秀論文題目及著者

縁付鋼塊に於ける氣泡の壓着性(鐵と鋼第21年第3號)

小平勇君

報告候也

日本鐵鋼協會代表理事 水谷叔彦